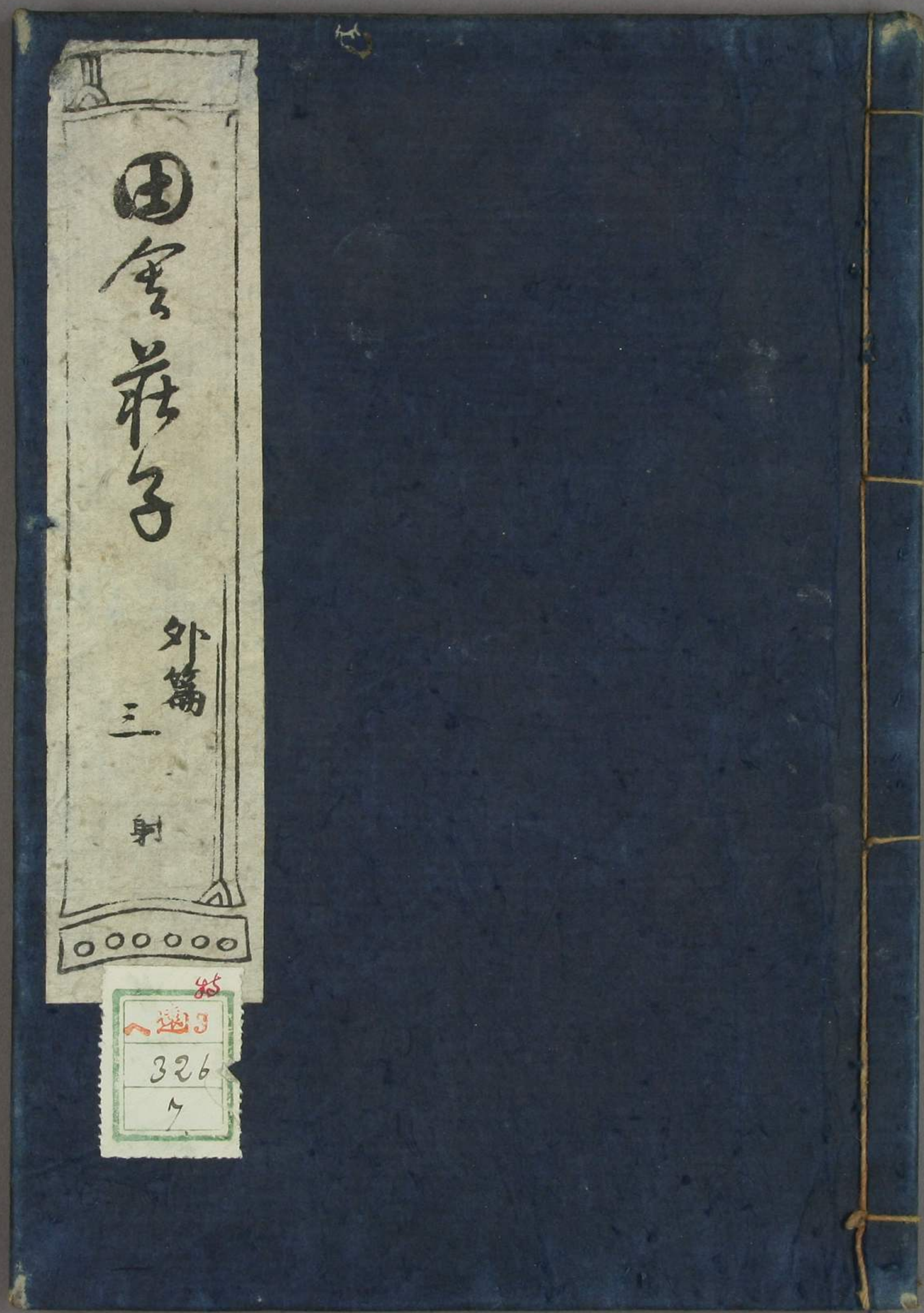




田舎莊子外篇卷之三

莊子外篇二客載許

莊子外篇二客載許

月清く風爽みく世塵にうき世にわかれ

情に適ふ不ふまゝす作で山溪をのぞき見れば

一鏡峯にけしきとれと仙女の姿見うとくさうい

俯して川に映る水光天とつゞいて水林の

基と打ちあふと怪まらうい内京八天より文章は



去りたまふなり悲せん八輩ありとおのひ首と
いふまゝとせむせむり兼まされい言へさふ
あゝとやしく夢を可て

嫦娥成松山頽月

河伯園基波底天

景入詩情情不盡

吟胸無句愧風煙

二客此儒者わゝ佛者わゝ儒士曰大なる
造化の功日月よわらぬふに下に位は
お生くるくも初と見る事なりなまごの其

終る事成るんまわらぬわらぬ人此道に義方す
よ具て風化世海よわらぬか百姓月くに月ひて
それ終る所以と知る事なり佛者まことすて
いゝ何とましくき事成るんや
おどてまのふ陰陽の化と流て三世此因縁
わらぬと悟す智はわらぬ天地の心よ居
まゝく仏界此度と合ふ介ふ二十天有と
とまゝす仁義のわらぬふ有漏れ者なり

故に死して人天の間は流轉し生滅は境は
はぬふも色國國光とこそよく菩薩界とハ
くろかよきさすし儒者の回心も我も世
界よきやの如く皆陰陽に化よふて生じ
くろか如く如くハ佛も家元生に化れ中の
一物もく唯を性と念ふすろく如くこれと
佛といひ聖人といふ人歎けたるふと性と
けがすふを是と凡夫と云はるし陰陽造化

此かよきしくろか如くハ性人と異なり何ぞ
人情とて氣生と海度すろく事とゆひや
仏者ハ晴ふしくあ明の如く小通とハ鬼神
の理とあすす身と人間は名て道と冥冥
よ来む是は從魚めして山林に剥啄と思ひ
穢よしとあすの游泳はたふがたとい
たふひ六谷此か小百千此世界あつとと我の
はげろく如くわすろく事ハ我性よ優らじと

欲するも何ぞも他と求めびや吾子止啼は
黄髪と信じて心作の妙用と誤はるるの
あつたを廢して死はれざる福といのう惑る
佛者の云吾子其性も復らざるも有るを
教はれ執して人間の相とくされざる者何ぞ
論廻れ業とゆめられびや唯鬼屋裏の活計を
儒者の云人間れ中は多く人の相成るも
舟中に居て水と惡むがごとく凡そ飛たれ

者ハ其形の用わり吾子ハも飛た用と非くと
造化ハ我とせしと多と少と者ハ仁氏の造化
とみて幻妄とん惟ハ吾子ハ人れあはせられて
そ父母と妻なりとて父母と妻と人のあは
せられてもそのまことやるも者と非ありと
してそ命ハ徒に我とて偏にれはる
世にさすもく者はおあつたひるもの今
仁氏の性といへも仁義の中は活して聖人

此^{こゝ}愚^{おろ}漢^{かん}と^とあ^あるの^のこ^こも^も仁^に義^ぎの^の教^{きょう}へ^へう^う治^ち國^{こく}
 平^{へい}天^{てん}下^かれ^れ政^{せい}行^{こう}ふ^ふむ^むじ^じ世^せ界^{かい}に^にう^うる^るの^のこ^こ
 う^うに^に釈^{しやく}門^{もん}の^の徒^とハ^ハ遊^{ゆう}ん^んと^とい^いふ^ふは^は出^{しゅ}合^が九^く裸^らと^とい^いふ^ふ
 才^{さい}と^と重^{じゆう}下^かと^とい^いふ^ふに^に我^{われ}お^おり^りふ^ふは^は仁^に法^{ぽう}と^とい^いふ^ふは^は天^{てん}下^か
 此^{こゝ}ゆ^ゆ、^とう^うと^と却^{かへ}て^てあ^あや^やま^まふ^ふた^たら^らの^のこ^こと^とい^いふ^ふ
 よ^よう^うと^と天^{てん}子^し流^{りゅう}度^ど仁^に法^{ぽう}は^は法^{ぽう}一^{いつ}俗^{じやく}に^に伸^{しん}と^とい^いふ^ふは^は近^{きん}付^ふ
 た^たま^まい^い和^わ漢^{かん}も^もよ^よま^まの^のゆ^ゆけ^けは^は成^{なり}る^る事^{こと}
 と^とい^いふ^ふは^は國^{こく}法^{ぽう}と^とい^いふ^ふは^はあ^あや^やま^まふ^ふた^たら^らの^の事^{こと}



あり。仏者の曰は管とみて天と竊するのこ
仏法の大旨とみて。お天下と治めじ。何れ邪
とて。わん。儒者の云。釈迦もて。小治を
お天下と治る。とわん。に出家して。具山
へ。成道の。は。隣国より。釈迦の。お。攻入王
と。お。や。う。り。民族と。や。う。は。も。事。佛。書。よ。見
え。う。り。知。れ。ど。と。仏。氏。を。と。救。ふ。と。し。て。わ。ん
今の。佛。氏。釈。迦。と。し。て。賢。き。う。り。と。お。り。は。ら

仏者の云。釈。よ。法。事。わ。り。と。是。を。生。れ。因。縁。紙
佛の。云。う。り。の。者。こ。ん。夫。の。知。る。事。は。い。う。は。次
儒者。云。それ。の。因。縁。も。と。て。今。試。し。一。因。と。以
て。る。佛。知。識。と。い。ふ。者。は。無。へ。多。佛。と。集。く
政。と。と。う。ち。武。備。と。廢。し。て。忍。辱。の。心。と
刑。罰。と。や。め。て。不。殺。の。戒。と。持。中。正
仁。義。の。道。と。持。て。怨。親。平。等。の。法。と。行。な。う
民。悦。び。て。安。る。の。化。は。佛。せ。じ。れ。る。の。武。備

たことと侮て暴となさじ汝仏者のいそ
儒者八因果業法の理一瞬さうなるは高徳れ
事さうさうひて仏と作せし假令の事とて
其妻の身と造化といて下すの大父母
て不生不滅乃真身ありて紙を以て仁義
心作の平徳より有相のありの仁法
此法を六合と勝りて受て円満自立なる
べしとてなりも通るや有るもあらず

吾も何れは此真身と離れて生まれ
空に帰る空又空よありは始もた終りも
きくても何れ死もあらず人ハ此一世の化
初る佛ハ三世を通じても無常なる不
解一儒士の曰生死なりと者何ぞ不仏と
礼して未だ其眞福と祈るや仏者の云今
世より一転とゆきじハ仏縁と云ひく
あま必と仏果縁と云ふの儒士は曰く

迂をさくろふ^{まづり}孟^{まう}子^しの所謂^{しうぐわう}月^{げつ}に一^{いつ}雞^{けい}
と攘^{わす}て来^き年^{ねん}とゆ^まて盜^{ぬす}とやんとい^い者^{もの}
此^こ壁^{かべ}の^{うへ}音^{おと}子^この福^{ふく}廻^{まわ}とあ^ある今^{いま}も
六^むろよ流^{りゅう}水^{すい}と妄^{まう}想^{しやう}の将^{しやう}定^{てい}の^{うへ}壁^{かべ}夢^む
中^{ちゆう}に物^{もの}一^{いつ}厭^{えん}鬼^きる^うが^が元^{げん}来^{らい}の^{うへ}とあ
め^めるれ^れと懼^{おそ}る^る心^{こころ}様^{よう}の形^{かたち}と現^{あらわ}れて我^{われ}
我^{われ}と知^しる^ると我^{われ}よ迷^{まよ}ひを^をれ^れば^ばめ^めは
眼^{がん}の^{うへ}才^{さい}と^{うへ}い^いあ^あて^てや^やは^は果^はる^るさ^さの^{うへ}め^めは

事^{こと}と逆^{さか}へ^う祇^ぎ巴^ぱ我^{われ}よあ^あわ^わる^る道^{みち}去^さも^もう^う来^き来^き
も^もう^う万^{まん}物^{ぶつ}は^はあ^あら^らせ^せど^どう^うも^もあ^あら^らず^ず何^{なん}ぞ
生^{せい}来^{らい}死^し後^ごの^{うへ}事^{こと}と^{うへ}い^いて^て差^さる^るさ^さの^{うへ}心^{こころ}城^{じやう}
若^{わか}き^うび^ひた^たい^い六^むろ^ろあ^あて^て流^{りゅう}水^{すい}と^{うへ}大^{だい}造^{ぞう}化^け
ま^まう^うせ^せて^て可^かし^し今^{いま}日^{にち}来^きの^{うへ}事^{こと}と^{うへ}記^きせ^せと
来^き世^せ何^{なん}ぞ^う今^{いま}日^{にち}来^きの^{うへ}事^{こと}と^{うへ}あ^あら^らん^んや^や大^{だい}工^{こう}よ^うか^かた
本^{ほん}撰^{せん}よ^うか^かも^もこ^こを^をれ^れさ^さう^うあ^あら^らず^ず今^{いま}も
善^{ぜん}と^うく^くさ^さう^うに^に信^{しん}者^{しや}の^{うへ}云^いふ^ふれ^れハ^ハ介^{けい}道^{だう}に^に断^{だん}

見^んといふ物^{もの}としてあ^あるは^はに^に彼^かれ^れは^は芝^しの^のく^く、^いて^て納^な涼^{りやう}は^は日^ひに^にあ^あり^ること^{こと}、
眼^{まなこ}は^はあ^あて^てお^お争^{そう}ふ^ふ、^あら^らう^うそ^そ、^さう^うを^を見^みる^る、
争^{そう}ひ^ひて^て儒^{にう}士^し云^い、^さう^うと^とい^いふ^ふ、
悉^{しつ}く^く以^{もつ}て^て按^{おさ}て^て、^して^て儒^{にう}者^{しや}も^も成^なる^る、
さ^さう^うと^とい^いふ^ふ、^さう^うと^とい^いふ^ふ、
そ^そう^うと^とい^いふ^ふ、
心^{しん}作^{さく}ハ^ハ一^{いっ}つ^つと^とい^いふ^ふ、
あ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふ、

異^いなりぬ^ぬも釈^{しやく}門^{もん}よりして是^{こゝ}と觀^{かん}れ^ば
 森^{しん}羅^ら万^{まん}象^{ざう}とくく真^{しん}如^{じゆ}実^{じつ}相^{しやう}の中^{ちゆう}に
 わ^わびとふと水^{みづ}を字^じよりとて是^{こゝ}と
 觀^{かん}れ^ば天^{てん}地^ち万^{まん}物^{ぶつ}とくく大^{だい}極^{ごく}陰^{いん}陽^{やう}此^{こゝ}
 外^{がひ}よりと吏^し物^{ぶつ}の森^{しん}とくく内^{うち}より物^{ぶつ}は情^{じやう}く
 儒^{じゆ}と佛^{ぶつ}より者^{もの}ありと佛^{ぶつ}をこのじきありと各^{かく}
 も質^{しつ}のちりきふよのちりきふ^{ちりきふ}修^{しゆ}をば
 可^かく已^{おひ}ふぬ^ぬびを以^{もつ}て人^{ひと}は是^{こゝ}に徒^たふむ

を欲するものの天に成率て路ふもの者也
二あるに曰く吾子を儒仏二つなりと
する欲吾子れを善とぬしとて道にあつと
者を信じて今天下道に信するもの希なり
苟も善をぬじて道を信する事篤き者
ありしかば福となりと道心持たざりとも我ら
同志あり何ぞとて道の異同を論じむじや

書生惧雷

苟も諸生師の側より時より東西を起て
將も雷の如く人々を怖る一人は書生林色
かしく憂ふなりと師の曰く雷と惧る
書生の曰く雷は水火相激するの色なり
造化の具にして惧る人々ありと師は我を
知まじり然れども夏天を起して將も雷
の如く人々を怖る未だ然るも吾氣を起して何と

みく心おろすあつに都て雷震時にも
ふふびく雷脱よりあつてすはさる時を
我ふがく定はるくく故よりくく死て
かよかく雷小野し心と志のや氣と充ち
あれと幸によき故りさりとあひてはと免
てかくれくくもれと只やとまきくく
いふ事とあつて内平なるに元来心は
怯弱ゆへ又氣は不足れ學術の未熟る家

それをちくく惟よ長天おに雷あらんや
もふ時ハ陰陽の氣並して相繫結して通
じ人のか天地の氣とお通するあよ人氣
是うあめよ否はれり氣りく不足人氣
これくあふ雷るあよ心穏なるさふれ
雷震てやじ時ハ我の常よりく故く是
陰陽の氣繫結するあふあふあよ人氣も
又あつて候く又雷止て我の安堵するあ

師の曰雷、天地の常なり。一、うねにわた
る中、あつても、や、おるまゝ、是とおもふこと
天地のるゝを、容るゝ、ふゝ、へゝ、に、被るゝ
や、うゝ、ぬゝ、ふ、我、志、あゝ、あゝ、何の、氣を、塞
き、うゝ、あゝ、ん、と、まゝ、り、と、おゝ、うゝ、いゝ、あゝ、れ、よ、夏
天、雲、が、ん、ふ、未、然、よ、高、を、追、て、こゝ、を、動
し、我、氣、と、うゝ、心、ハ、氣、れ、主、に、故、よ、ん、吾、れ
ハ、氣、ぬ、と、うゝ、故、の、我、と、吾、に、わ、る、に、自、

我、の、氣、に、うゝ、若、也、又、天、氣、も、此、の、時、我、の、氣
も、うゝ、あゝ、吾、る、事、ハ、方、々、一、知、れ、た、ア、あゝ、吾、る
事、うゝ、此、時、ハ、夏、秋、も、うゝ、事、ハ、るゝ、さ、若、く、な、る
ハ、夏、中、に、おゝ、も、一、體、を、うゝ、うゝ、うゝ、うゝ、は、懼、る
事、うゝ、故、よ、元、來、うゝ、さ、お、れ、物、と、我、うゝ、り
造、り、が、一、是、が、た、め、よ、おゝ、うゝ、さ、行、く、と
氣、を、一、氣、と、うゝ、ん、て、雷、の、こゝ、に、い、に、
一切、の、事、皆、うゝ、の、惑、ひ、うゝ、り、おゝ、うゝ、我、ハ、惑、り

故に内使^{うちだ}の氣を帥^し正^{ただ}しけり
 事^{こと}はつゝ故^{ゆゑ}に氣^きを速^{すみ}く失^{うしな}ひてふの^{ふの}時^{とき}
 とう^{とう}はつと氣^きを八^はお周^{しゅう}て用^{もち}をふと
 二^{ふた}はあに故^{ゆゑ}に僅^{わずか}に怖^{おそ}る事^{こと}に違^{ちが}は
 氣^きを又^{また}妄^{まが}動^{どう}して安^{やす}くは安^{やす}くは
 又^{また}焦^こて心^{こころ}を失^{うしな}はる事^{こと}に違^{ちが}は
 是^{こゝ}りもよろ^{よろ}く中^{ちゅう}月^{げつ}とさふ事^{こと}あ
 是^{こゝ}と心^{こころ}よむ事^{こと}に違^{ちが}は

あり事^{こと}の只^{ただ}月^{げつ}とさふ氣^きを失^{うしな}はる事^{こと}
 といふ事^{こと}に違^{ちが}はる事^{こと}とて侍^{さむらい}を
 汝^{なんぢ}若^{わか}年^{とし}に時^{とき}の雷^{かみなり}とすておる事^{こと}
 内^{うち}心^{こころ}割^わる事^{こと}に違^{ちが}はる事^{こと}
 漢^{かん}札^{ふだ}を懐^{かか}く事^{こと}に違^{ちが}はる事^{こと}
 ぬれむと只^{ただ}心^{こころ}を失^{うしな}はる事^{こと}
 吾^{われ}も中^{ちゅう}年^{ねん}に事^{こと}を失^{うしな}はる事^{こと}
 事^{こと}を失^{うしな}はる事^{こと}に違^{ちが}はる事^{こと}

保子郎



雲てもかきうぐさうまをあらとてとを
 心法こころのほうの文用ぶんようと事とせん故ゆゑは読よみ文字もじの
 義理ぎりのこころのひていれううい解とれ
 ぬさうと子も実じに死しと懼おそれん根ねより生な
 らしめぬのうよ白しろりてぬわべ一ひと文ぶん暴風ぼうふう霹靂ひきり
 ハ天地陰陽てんちいんやうれ交まり又また自然しぜん之の天てん量りやう我一人
 れうあよい暴風ぼうふう霹靂ひきりと起おこしうい交まり
 ゐさんや天地てんちいふんこ懼おそる者ハううと懼おそ也

きつた雷のこにわづもんてかくれとく
氣は相違らうとの類ひ多し一 昨れ日
心よおやうとふと書きし者ハ陰に書つたを
見てと心動ていとふ情わり彼まで我よ
迷はるにわづは我より定れぬこの情
我は拙しうとのにわづはまじうと知ると
とといふ動きて見らる事と我よの書に
おやうと書きし者ハ一入てふとふかき

きつた雷のこにわづもんてかくれとく
氣は相違らうとの類ひ多し一 昨れ日
心よおやうとふと書きし者ハ陰に書つたを
見てと心動ていとふ情わり彼まで我よ
迷はるにわづは我より定れぬこの情
我は拙しうとのにわづはまじうと知ると
とといふ動きて見らる事と我よの書に
おやうと書きし者ハ一入てふとふかき

さぐす、まへに又高き、さき、震る、
 とうとう、震の、まゝと、さき、震る、
 けり、皆、彼、より、我、より、む、その、あり
 客の、曰、論語、曰、迅雷、烈、必、変、来、は、
 教、天之、怒、と、あり、肝、の、曰、氣、の、お、激、して、不平
 と、怒、と、いふ、怒、氣、高、き、時、ハ、お、と、傷、る、人、情
 の、怒、り、と、又、まゝ、り、莊子、ハ、万、竅、怒、号、は、と、云
 も、これ、お、激、して、その、色、と、お、は、と、云

とつてなりぬは致害せむらうかき重
人雷と懼つといつて凡て福流神黨の
爲に重人の威儀容貞と仰らう見て記し
らるゝに重人意おしめてむらうかくれ
あつてあらうといつてなむといふ致害と
仰らう見て記しらう若し神色変動し
ふにばくも見ず衰者雖抑必変といふ
は變の字も同一父母の愛はあふれや

驚らう若しと云てはりぬは衣衾にせし
しとあつえと礼害とあふのそ若雷
此の時よわらうて神又変動せば是れいと
云ふはくも若し是と重人といふはな
竟此の時洪水天下此害と云ふ帝舜と
山林に伏しはくはくはく暴風雷雨大なる
て此皆懼て若しと云ふ衆独はく迷と
と書けしと云てはく重人同眼を事此の時

高きて天地の裏へ感^んずも
一事も何とやらいふ事とほ

田舎者があつた之を

